「測地学会誌」和文投稿原稿の書き方

測地　太郎1)・地図　学2)

1. 国土地理院
2. 京都大学大学院理学研究科

（2022年9月1日受付，2022年10月1日改訂，2022年10月6日受理）

**How to Write Manuscripts in Japanese for Contribution**

 **to Journal of the Geodetic Society of Japan**

Taro Sokuchi1) and Manabu Chizu2)

1. Geospatial Information Authority of Japan,

1 Kitasato, Tsukuba, Ibaraki 305-0811, Japan

1. Graduate School of Science, Kyoto University,

Kyoto 606-8502, Japan

(Received September 1, 2022; Revised October 1, 2022; Accepted October 6, 2022)

Abstract

An abstract should be concise, clear and comprehensive. It should be intelligible in itself without reference to equations or figures in the text, should not be a table of contents, and should summarize the substances of the conclusions.

**1．　表　　　　題**

和文の原著論文，坪井賞受賞記念論文，寄書，テクニカルレポート，データベース・資料集・データ論文，総合報告，解説・入門講座および報告では，和文で表題，氏名および所属を記し，次に英文で表題，氏名，所属および住所を記す．英文表題では，冠詞，前置詞および接続詞以外の単語の頭文字を大文字とする．ただし，表題が冠詞で始まる場合は大文字とする．書評・紹介およびフォーラムでは，和文で表題および氏名を記す．

**2．　要　　　　旨**

　和文の原著論文，坪井賞受賞記念論文，寄書，テクニカルレポート，データベース・資料集・データ論文，総合報告には，英文の要旨をつける．要旨は，結論等を簡潔にまとめた内容であり，本文中の図や式を参照せずに理解できるものとする．

**3．本文および体裁**

**3.1.　本文**

　本文は，各セクションに算用数字で通し番号をつけ，簡単な見出しをつける．原稿は，Ａ４判用紙に横書きとし，現代かなづかいを用いる．文中の外来語はカタカナまたは原語を用いる．

　句読点は「．」「，」を用いる．さらに，漢字地名や人名の読みにくいものには，その語句の直後に括弧（　）の中に入れた形でふりがなをつける．ローマ字の人名は頭文字のみ大文字，あとは小文字とする．数字は算用数字を用いる．

　本文の行中に記入する数式は，できるだけ行の上下にはみ出さない形にする．たとえば， $\frac{h}{a}$ ，$ sin\left(\frac{nπϖ}{λ}-\frac{2πρτ}{λ}\right)$などとせず, $h/a$, $sin\left[\left(nπϖ/λ\right)-\left(2πρτ/λ\right)\right]$ などとする．また，式番号を付けた数式の場合は，

$p=\sin(\left(\frac{nπϖ}{λ}-\frac{2πρτ}{λ}\right))$ (1)

のようにする．

　本文中における文献の引用は，たとえば，“Heiskanen and Moritz（1967）および瀧口・福田（2006）は…”，あるいは“…を論じた（Heiskanen and Moritz, 1967; 坪井，1979）．”などの形で記し，著者が3名以上の場合は“竹本ほか（1990）は…”や“…を論じた（DeMets *et al*., 1995）．”などのようにする．本文末尾に参考文献として，著者のアルファベット順に記載した引用文献の表をつける．なお，同一著者が筆頭となる論文がいくつかある場合には，単独の論文（複数ある場合は刊行年の順），著者が2人の論文（共著者のアルファベット順），著者が3人以上の論文（刊行年の順）の順に分けて記載する．同一著者で同一刊行年の複数の文献を引用する場合は，西暦年のあとにa，b，……をつけて区別する．webページを引用する場合は，参照した日付も記す．

　注はなるべくつけないことを原則とするが，つける場合は脚注とし，引用場所の番号（たとえば，(注1)）をつけて，別紙に書く．

**3.2.　図，写真および表**

図，写真および表は，それぞれ算用数字で通し番号をつける．その際，図（写真）にはその下側に英文で，たとえば，“Fig.(Photo.) 2. Explanation of the figure (photograph). ”とし，表にはその上側に英文で，たとえば，“Table 1. Explanation of the table. ”と説明をつける．本文中での引用は，たとえば，“Figure (Photograph) 2を参照のこと”，または，“Table 3を参照のこと”などとする．

　原稿の本文中に，図（写真）および表の挿入希望場所を朱書きで指定する．図（写真）のカラー印刷を希望する場合は，その旨明記する．

　図（写真）も電子ファイルの提出を原則とするが，印刷物で提出する場合は，次のようにする．図（写真）は，1枚ずつＡ４判の台紙に貼り，刷り上がり寸法または縮率を記入する．刷り上がり寸法は，横 130mm，縦 180mmを上限とする．図は黒色で明瞭に描く．図中の文字の寸法は，刷り上がり1mm以下にならないようにする．なお，電子ファイルによる図（写真）も，1ページに1枚を割付け，十分な解像度をもつものとする．

**謝　　　辞**

　本文の後に，1行あけて記す．

**参考文献**

参考文献は，下記の例にならって，著者，刊行年，表題など，雑誌名，巻号，頁, 割当てられていれば，DOI (Digital Object Identifier) の順に書く．プレプリントサーバの論文の引用も可とする．

（引用例： 雑誌等）

DeMets, C., R. G. Gordon, D. F. Argus, and S. Stein (1990): Current plate motions, Geophys. J. Int., **101**, 425–478. https://doi.org/10.1111/j.1365-246X.1990.tb06579.x

Fujiwara, S., M. Tobita, and S. Ozawa (2021): Spatiotemporal Functional Modeling of Postseismic Deformation After the 2011 Tohoku-Oki Earthquake, Research Square. https://doi.org/10.21203/rs.3.rs-423959/v1

Takemoto, S. (1990a): Laser holographic measurements of tidal deformation of a tunnel, Geophys. J. Int., **100**, 99–106. https://doi.org/10.1111/j.1365-246X.1990.tb04571.x

Takemoto, S. (1990b): Local crustal strains observed with holographic interferometry, Proc. IAG Symposium No.101 “Global and Regional Geodynamics”, Aug. 3–5, 1989, Edinburgh, Scotland, Springer-Verlag, 293–302.

Takemoto, S. and T. Tsuboi (1998): Application of holography and ESPI techniques to earthquake prediction, Proc. SPIE 952 “Laser Technologies in Industry”, June 6–8, 1988, Porto, Portugal, 230–234.

竹本修三・平原和朗・田中寅夫 (1990): 可搬型レーザー伸縮計システムを用いた紀州観測室における地殻ひずみの観測，測地学会誌，**36**, 101–108. https://doi.org/10.11366/sokuchi1954.36.101

瀧口博士・福田洋一 (2006): GPS座標時系列におよぼす地球表層流体の荷重変動影響の補正，測地学会誌, in press.

（引用例： 単行本）

Heiskanen, W. A. and H. Moritz (1967): Physical Geodesy, Freeman, 364p.

坪井忠二（1979）：重力，第2版，岩波書店，13-14.

（引用例： webページ）

国土地理院（2006）：平成18年9月～10月の地殻変動について，<http://www.gsi.go.jp/>，（参照 November 24, 2006）．

**付　　　　　録**

付録は参考文献の後につける．

　付　この執筆要項は，「測地学会誌」第68巻から運用する．

 （2022年10月6日　日本測地学会評議会にて改定）